

Newsletter No. 11

Maxillofacial Prosthetics

発行人 後藤昌昭

編集 広報委員会

事務局 〒135-0033 東京都江東区深川 2-4-11 一ツ橋印刷(株) 学会事務センター内

Tel : 03-5620-1953 Fax : 03-5620-1960

E-mail : max-service@onebridge.co.jp

『顎顔面補綴治療のガイドライン』 作成にあたって



日本顎顔面補綴学会

理事長 後藤 昌昭

佐賀大学医学部

歯科口腔外科学講座

学会員の皆さまには、さわやかに初夏をお迎えることとお慶び申し上げます。日頃は、学会活動に多大のご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、日本顎顔面補綴学会は 30 年以上に亘り補綴歯科、口腔外科、歯科技工、言語治療などの専門家が集まり学術活動を続けてきましたが、学会として顎顔面補綴治療に関するガイドラインは策定していませんでした。そこで、平成 20 年度日本歯科医学会プロジェクト研究『わが国における顎顔面補綴治療の現状分析と診療ガイドラインの作成』が日本補綴歯科学会と日本口腔外科学会の共同申請により採択され、両学会からの委託を受けて、日本顎顔面補綴学会が顎顔面補綴に関するわが国における実態調査と診療ガイドラインの作成を行うことになりました。

ガイドラインの作成に当たっては、本学会に属する歯科補綴学、口腔外科学の専門医によるワーキンググループを結成し、臨床現場において重要なクリニカル・クエスション（CQ）に関して膨大な文献調査を行って、各 CQ に対する回答と根拠となるエビデンスの解説を作成しました。本年 4 月末の時点で日本歯科医学会に提出されたガイドライン（案）は、専門的評価を受けた後、ブラッシュアップを経て皆様の臨床現場でお使いいただくこととなります。

今回まとめたガイドラインは、新たな治療法を規制するものではありません。むしろ、診断、治療法の変遷にともない診療ガイドラインは修正されていくことになるでしょう。したがって、現時点における標準的顎顔面補綴治療の根拠としていただければ幸いです。

診療ガイドラインについて

各学会により作成され医療情報サービス（Minds : Medical Information Network Distribution Service）に収載された各種ガイドラインは、現在下記サイトに公開されています。

http://minds.jcqhc.or.jp/stc/TB/GL_1_ContentsTop.html

『顎顔面補綴治療のガイドライン』 における CQ について

ガイドライン作成ワーキンググループ（五十音順）
尾澤昌悟 愛知学院大学歯学部有床義歯学講座
小野高裕 大阪大学大学院歯学研究科顎口腔機能
再建学講座
久保吉廣 徳島大学大学院バイオヘルスサイエンス
研究部咬合管理学分野
小山重人 東北大学病院顎口腔再建治療部
塩入重彰 国立病院機構横浜医療センター歯科
口腔外科
津江文武 福岡歯科大学咬合修復学講座
月村直樹 日本大学歯学部歯科補綴学第二講座
中島純子 防衛医科大学校歯科口腔外科
野口信宏 佐賀大学医学部歯科口腔外科学講座
山森徹雄 奥羽大学歯学部歯科補綴学講座

現在作成中の「顎顔面補綴治療のガイドライン」
（案）に収録した Clinical Question（CQ）をご
紹介いたします。これら 23 の CQ に対して、の
べ 157 編の論文をもとにエビデンスに基づく推
奨度を決定し、推奨文、解説文、構造化抄録を作
成しました。その一例をお示します。

CQ：上顎欠損患者において顎欠損の分類は機能回復に有用か？

【推奨】弱い科学的根拠に基づいている

【推奨文】上顎領域の顎補綴治療を行う際に、
顎欠損の分類を行うことは有効である。ただし、
顎欠損の分類方法は統一されておらず、かつ
顎欠損状態全てを分類することは困難である。

【概説】上顎顎補綴治療における顎欠損分類の
治療上の有効性について、直接調べた文献はな
い。検索された研究文献の多くは、顎欠損の分
類による顎顔面補綴装置の設計ガイドラインを
示すものであった。その中で、顎補綴装置に
よる機能回復との相関を調べたものは 4 例で、
咀嚼機能、嚥下機能、発音機能との相関を調べ
ているものである。全てにおいて有効とされて
いるが、評価方法、ましてや分類自体が統一さ
れておらず、メタアナリシスも存在しないため、
エビデンスレベルとしては低いと考えなければ
ならない。（以下略）

「顎顔面補綴治療のガイドライン」CQ リスト

上顎領域の顎補綴

CQ：上顎欠損患者において即時再建は二次再建
よりも機能回復に有用か？

CQ：上顎欠損患者において顎欠損の分類は機能
回復に有用か？

CQ：上顎欠損患者において機能評価（検査）は
顎補綴治療に有用か？

CQ：上顎欠損患者において顎義歯は皮弁による
閉鎖よりも機能回復に有用か？

CQ：上顎欠損患者においてインプラント治療は
機能回復に有用か？

CQ：放射線治療は上顎欠損患者のインプラント
治療に制約を生じるか？

CQ：上顎欠損患者において残存歯の保存は機能
回復に有用か？

CQ：腫瘍切除後の鼻咽腔閉鎖不全において補綴・
補助装置は二次再建よりも有用か？

CQ：鼻咽腔閉鎖不全に対する顎義歯において軟
性材料は機能回復に有用か？

下顎領域の顎補綴

CQ：下顎欠損患者において顎骨再建は機能回復
に有用か？

CQ：下顎欠損患者において顎義歯は機能回復に
有用か？

CQ：下顎欠損患者において機能評価（検査）は
有用か？

CQ：下顎欠損患者においてインプラント治療は
機能回復に有用か？

CQ：放射線治療は下顎欠損患者のインプラント
治療に制約を生じるか？

CQ：下顎区域切除・非再建患者において滑面板
によるリハビリは機能回復に有用か？

CQ：下顎欠損患者において残存歯の保存は機能
回復に有用か？

CQ：舌欠損患者において舌接触補助床（PAP）
は機能回復に有用か？

顔面補綴

CQ：顔面欠損患者においてエpiteーゼは皮弁修
復よりも審美修復、機能回復に有用か？

CQ：顔面欠損患者においてインプラント治療は
審美修復，機能回復に有用か？

CQ：放射線治療は顔面欠損患者のインプラント
治療に制約を生じるか？

CQ：エピテーゼ材料としてのシリコン樹脂は
審美修復，機能回復に有用か？

放射線治療補助装置

CQ：放射線治療において補助装置の使用は放射
線骨壊死の予防に有用か？

第 28 回学術大会 in 富山

第 28 回総会・学術大会を 開催するにあたって



総会長 野口 誠



準備委員長 佐渡忠司

この度，歴史ある日本顎顔面補綴学会の第 28 回総会を開催することとなり，大変光栄に存じます。本学会が過去に富山で開かれるのは，第 4 回総会（1987）以来となりますので，干支でいえば二回り，およそ四半世紀を経て当地に還ってきたことは感慨深いものがあります。会期は平成 23 年 6 月 3 日（金）4 日（土）で，会場は富山市大手町の富山国際会議場を予定しております。

富山市は南側に 3000m 級の北アルプス・立山連峰を臨み，北側は最深 1000m に至る富山湾を抱え込む，きわめてユニークな場所に位置します。立山連峰から溢れ出す雪解け水は急峻な河川を流れ伏流水として富山平野を潤し，やがて富山湾の深い懷に流れ込むことから，新鮮な海の幸，山の幸が豊富な土地柄であることは，皆さんご存知のことかと思ひます。学会が開催される 6 月

初旬は，富山湾の宝石と賞せられるシロエビ，夏の王者クロマグロ，岩ガキや甘エビなど，富山ならではの海の幸が堪能できるかと思ひます。

富山市の観光キャッチフレーズに「立山あおぐ特等席」ということばがあります。富山市の中心部の至るところから，映画の舞台となった剣岳をはじめ大日岳，薬師岳，雄山などの雄大な景観を（お天気さえ良ければ）楽しむことができます。会場となる富山国際会議場は，富山市の中心部“まちなか”のランドマークの一つであり，富山城址公園や ANA クラウンプラザホテルなどに隣接しており，繁華街にも直近の場所であることから，宿泊や食事，またちょっとしたリフレッシュにも最適な場所です。富山空港からバスで約 15 分と近く，また 2009 年からは市内路面電車環状線「セントラム」が会議場の真ん前に停まるように敷設されて，JR 富山駅からのアクセスも至極便利になっています。この「セントラム」は，富山市が「クルマに頼らないコンパクトな町づくり」を目指して進めている新世代 LRT（Light Rail Transit）ネットワークの一つで，全国の鉄道ファンからも注目を集めているところです。それほど大きな街ではありませんので，徒歩や LRT でも十分に美味しい空気と景色を（そしてもちろん食事）味わうことができると思ひます。また学会後には，少し足を伸ばせば，立山黒部アルペンルートや平家の落人伝説が残る世界遺産・五箇山合掌集落などを訪れることもできるでしょう。

来年の 6 月に会員の皆様と当地でお会いできますことを，心よりお待ち申し上げております。



平成21年度優秀論文賞受賞者の声

関谷秀樹

東邦大学医学部口腔外科



「口腔悪性腫瘍術後の摂食嚥下障害に対する舌接触補助床を用いた機能回復法の有効性の検討（第1報）舌接触補助床使用群と非使用群の術後状態における比較」

（顎顔面補綴 32 巻 2 号）

受賞のお話をいただいた時の率直な感想は、「驚き」でした。そもそも、この統計は、自験例のみでサンプル数が少なく、時期尚早な感もあったのですが、下郷先生・臼井先生主催の四日市での学会開催とあって、「これは演題を出して伺わねば」との一心でまとめました。結果は、論文の通りで、今ひとつパツとしない結果だなと内心思い、ほとんどのデータを収集した鶴見大学歯学部第1口腔外科医局会でも予演会を行いました。そこで共著者の濱田先生・川口先生から意外な反響があり、「切除範囲には相関がないが、再建法には相関がある」という事実に意義がある、とご意見をいただきました。四日市の学会でも反響があり、たくさんのご質問をいただき、後藤理事長からも「結論がわかりにくい」とのご指摘もあり、まとめ方を熟考しました。そして学会から帰り、一気に論文にしました。査読者の先生方の大変ご丁寧で詳細にわたるご指摘があり、なんとか形になったものと拝察いたします。

もとより私は、口腔がん術後の機能回復をテーマに、臨床一筋でやってまいりました。これにおいては、瀬戸先生、松浦先生、野村先生のご指導で何とか続けることができました。その結果、(社)日本口腔外科学会・学術奨励賞を2006年にいただき、学位になりました。鶴見大学在籍中は園山先生という強いパートナーが、データの収集補助や私の考えることをすべて実現してくれましたが、東邦大学へ移動してからは、過酷な環境で、常勤3名で年間約3000名来院する初診を診察、

手術しておりますので、データの採取もすべて私一人で地道に行っており、筋電図や舌圧計測などといった機器を使用する時間もなく、臨床データのみを収集するにすぎませんでした。反面、当科工藤先生のご指導の元、自分で手術、再建、術後管理・追加治療、術後訓練、データ採取のすべてを行うようになって5年、さまざまなことが頭の中で繋がってくるようになりました。

そういうわけで、多くの方々のご支援やご助言なしでは、いろいろなことが成し遂げられない未熟者ですが、これからも先生方の叱咤激励により精進していきたいと思いますので、宜しくご指導の程、お願い申し上げます。ありがとうございました。

関連学会報告

DRS の報告

Dysphagia Research Society 18th Annual Meeting が、3月3日から6日の4日間（pre-conferenceを含む）、Gregory N. Postma 会長のもと、アメリカ合衆国カリフォルニア州サンディエゴ The US Grant Hotel にて盛大に開催された。この大会は、Dysphagia を機関誌とする Dysphagia Research Society により、毎年アメリカ合衆国で開催されるもので、大会はアメリカに限らず世界各国から300名以上が参加し、6題のセッション講演、52題の口演発表、90題に及ぶポスター発表と充実した内容で、連日ほぼ満席状態の熱気に包まれた4日間となった。

参加者の構成は、およそ80%の言語療法士と、各々8%の歯科医師と耳鼻咽喉科医と、その他で構成されていた。歯科医師で参加する多くが日本



からの参加者であり、世界と日本での嚥下障害に関心を持つ職種の違いを感じることもあった。

テーマは大きく分けて2つ、NICU/PICUにおける栄養摂取（pre-conference）と、メインテーマであるベッドサイドでの臨床嚥下機能評価方法であった。NICU/PICUセッションでは、哺乳期から離乳期にかけての嚥下障害に対する栄養摂取方法について基礎・臨床の両方面から議論された。

メインテーマでの臨床嚥下機能評価方法では、内視鏡を使った評価が多く、固体・液体の口腔・咽頭・喉頭・食道への通過を評価するものでは、現時点では一番有効と考えられているようであった。疾病に関しては、パーキンソン病における嚥下障害についての議論があり、今後も嚥下障害では引き続き究明されるべき課題と感じた。来年はまた同時期にテキサス州サンアントニオで開催される予定である。

（会員：山本雅章）

ISMR の報告

イタリア北西部の港湾都市ジェノバから列車で1時間程海岸線を走ると、セストリレバンテの駅に到着する。ミラノやローマの富裕層が夏のバカンスを過ごすこの小さな田舎町で、第9回国際顎顔面リハビリテーション学会（ISMR）が行われた。イタリアでの開催は12年前のトリノでの開催以来2回目となる。

学会は冒頭に会長であるリスバーグ教授（シカゴ大イリノイ校）の開会宣言の後に、早速ポスターセッションとウエルカムパーティが行われた。ISMR 特有のアットホームな雰囲気と生演奏のBGMが流れる優雅なセッティングで64枚のポスター演題の発表と討議がなされ、早くも会場は熱気を帯びた。今回は21か国からの演題発表があり、年々バラエティに富んでくるこの学会の特徴が伺える。ヨーロッパでの開催ということもあり、欧米からの参加が多いようであったが、アジア地域からも日本を始め、中国、タイ、韓国、シンガポールからの演題発表や参加があった。

JAMP（日本顎顔面補綴学会）メンバーからの

発表は口演3題を含めて21題あり、9つの機関からの参加があった。これはアジア地域では突出しており、ホスト国イタリアに次ぐ多さであり、ISMRとJAMPの連携の成果だと思われる。ポスター発表の間には、ポスター賞の審査も行われ、最終的に10演題が選考に残り、そのうち3演題が日本からの発表であった。

学会2日目からは口演発表が始まった。メインの会場の他に2つの会場が用意され、顎顔面領域の治療に関して様々な立場からの発表や討議が行われた。今回トピックとしてあげられたセッションの項目は、オッセオインテグレーション、チーム医療と患者やその家族の関係であり、特に後者は新しい取り組みとしてのパネルセッションが行われた。全ての演題発表の中で多く取り上げられたものは、インプラントとデジタル技術であり、顎顔面補綴患者のインプラントやCAD/CAMを応用した診断・治療技術の発展や各国での新しい取り組みが紹介された。

JAMPからの推薦演題として、大阪大学の小野高裕先生が「顎口腔腫瘍切除後の咀嚼と嚥下のリハビリテーション」と題するKeynote口演を行った。顎顔面領域の機能評価に関する客観的な手法を提示し、それに関する臨床研究の成果が示され、会場からも注目を集めた。もうひとつの演題は、東邦大学の関谷秀樹先生によるPAPによる嚥下機能回復に関する発表がなされた。いずれもJAMPの研究レベルの高さを印象づけるものであった。

学術大会後のイベントは、海岸沿いのレストランで行われたバンケットが催された。ここではイタリア特産のワインやシャンパンが振舞われ、



海岸に面した学会場

ほろ酔い気分で盛り上がり、言葉や国境を越えて交流を深めることができた。夕方に始まったパーティは日が暮れても、歓談のざわめきはなかなか収まらず、いつの間にか夜も更けていった。次の学会は新会長のアルバータ大学（カナダ）のウォルファード教授のもとで、2012年の10月にAAMP（アメリカ顎顔面補綴学会）との共催で、アメリカ東部の都市ボルチモアで行われる予定である。

（国際交流委員長 尾澤昌悟）



リスバーク会長を囲む JAMP のメンバー

書籍紹介

新刊書籍



新 癌の外科—手術手技シリーズ 8 頭頸部癌

監修 垣添忠生

編集 林 隆一

株式会社メジカルビュー社 発行

2003年10月10日

第1版 第1刷発行

「癌の外科—手術手技シリーズ 頭頸部癌」の初版から10年が経過し、その間に頭頸部癌に対する治療は治療後の機能をより重視した方向へと変革を遂げ、機能温存手術の開発・改良、また化学放射線治療などの発展もあったということで、前版では取り上げられていなかった、頭蓋底手術などについても加えての出版です。

補綴科であれば、顎義歯作製にて手術直後の患者さんに触れることは日常的ですが、外科サイドの先生方との情報共有あるいは円滑な意思疎通に

は最低限の外科手技を把握していなくてはなりません。また、外科にて多くの勉強を始めてみようとお考えの新人の先生方にもお奨めできるものでしょう。

大変判りやすい線で、大きく、そしてたくさんページを割いて掲載されたステップごとのシェーマで綴られた本書は、頭頸部癌は勿論、頸部郭清術、再建外科、そして顎顔面補綴まで含み、臨床の合間の一読や辞書代わりに使用してみてもいいのではないでしょうか？



義肢製作マニュアル

日本義肢装具士協会／監修

田澤栄治／著

医歯薬出版株式会社 発行

2010年4月20日

第1版 第1刷発行

本書はかつて発刊された「義肢学」（医歯薬出版、1988）の改定にあたり、内容を2冊に分け断端観察、採寸・採型、モデル修正、ソケット作製、アライメント、異常歩行などの項目について焦点をあて、詳細に述べたものです。

著者、田澤英二氏は、著者略歴によるとニューヨーク市の New York University 医療技術学部を卒業し、市内の Lenox Hill Hospital に勤務、スポーツ外傷装具適合にかかわってきたという経歴の持ち主であり、その豊富な臨床経験をもとに、義肢装具の基本的な製法から適合調整、完成までのプロセスを細かく解説し、義肢装具士に対する製作マニュアルとしています。

義手、義足ともに、審美以外にも機能が要求され、体重を支えそして走ることも、飛び上がることも必要なため、その過酷な使用状況下で考えられる不都合とそのチェック方法、テスト方法など、細かな部分についても記載されています。

各項目にて特に目を引いたのが、義肢情報カードです。大腿義肢、膝義肢、股義肢、前腕義手、上腕義手、肩義手など、それぞれによって患者さんのデータを取り残すことなく網羅できるよう、簡潔でありながら、長年の臨床経験により練り

あげられたのであろうと推察できる情報カードに大変驚かされました。

顔面補綴とは、バラエティーなどに相違があり、顔面補綴にて記すべき情報は場合によっては各個人に依存するところがありますが、今後われわれも参考にすると良いと思われる内容も多く盛り込まれている一冊です。

(広報委員 隅田由香)



化粧セラピー

資生堂ビューティーソリューション開発センター編

日経 BP 社 発行

2010 年 3 月 23 日

第 1 版 第 1 刷発行

「化粧セラピー」とは、化粧が容貌を好転させることで身体全体にリラクセーションと抗ストレスの効果をもち、皮膚を含めた全身の恒常性を向上させる療法です。

一方、顎顔面領域の欠損患者様に対する心のケアの重要性は従来から指摘されてきたところではありますが、実際、なかなかそこまで実践し、フォローされている診療施設は少ないものと思われます。患者様に対する心理ケアとしては、臨床心理士、ソーシャルワーカーによるカウンセリングなどが一般的ですが、「化粧セラピー」も症例によっては有効な心理ケアの手法となりうるのではないのでしょうか？そこで今回はその内容や活動をまとめた「化粧セラピー：資生堂ビューティーソリューション開発センター編、日経 BP 社」を紹介します。本書は数十年前から、あざ・白斑・やけどのあと・がんで黒ずんだ皮膚などで悩んでいる方に対して、特別に開発したファンデーションを使用したメーキャップのアドバイスをする活動などを続けている資生堂ビューティーソリューション開発センターによって編集されたものです。

化粧には、障害者の心を元気にさせるセラピー的な力が秘められているとされ、本書ではそうした事例と科学的根拠を具体的に紹介しています。また、研究方法に用いられている化粧心理学は応

用心理学の一領域を形成するまでに至っております。「化粧セラピー」は、今まで主にあざ・白斑など変形を伴わない皮膚の表層変化への応用が主でしたが、口唇口蓋裂や術後性瘢痕など、我々が主に扱う顎顔面補綴患者が有するような「可視的変形」へのアプローチにも効果が期待できます。そこで東北大学病院におきましても、一昨年から資生堂ビューティーソリューション開発センターと共同で、「口唇口蓋裂患者・顎顔面補綴におけるセラピーメーキャップの有用性」および「顎顔面補綴における新規化粧品基材開発」に関する研究を行っています。まだ、発表する段階に至っておりませんが、今後「化粧セラピー」の効果を多角的に検討するとともに、エビデンスの蓄積から理論を体系化することが求められているものと思われます。その意味におきましても、本学会員の皆様には、ぜひ本書を一読し参考にしていただくことをお勧めします。

(広報委員 小山重人)

関連学会の案内

●第 23 回日本顎関節学会総会・学術大会

開催日：7 月 24 日（土）～ 25 日（日）

会 場：タワーホール船堀

大会長：杉崎正志

問い合わせ先：口腔保健協会

TEL：03-3947-8891

FAX：03-3947-8341

●第 21 回日本臨床口腔病理学会総会・学術大会

開催日：7 月 31 日（土）～ 8 月 1 日（日）

会 場：大阪歯科大学楠葉学舎

大会長：田中昭男

問い合わせ先：大歯大 口腔病理学

TEL：072-864-3111

●第 20 回 日本口腔粘膜学会総会・学術集会

開催日：7 月 31 日（土）～ 8 月 1 日（日）

会 場：大阪歯科大学楠葉学舎

大会長：森田章介（大歯大）

問い合わせ先：大歯大 口腔外科学第 1 講座

TEL：06-6910-1111

Newsletter No. 11

Maxillofacial Prosthetics

●第16回日本摂食・嚥下リハビリテーション
学会学術大会

開催日：9月3日（金）～4日（土）

会 場：朱鷺メッセ（新潟市）

大会長：植田耕一郎

問い合わせ先：日本大学・歯 摂食機能療法学講座

TEL：03-3219-8198

●第44回日本口腔科学会関東地方部会

開催日：9月4日（土）

会 場：明海大学新浦安キャンパス

大会長：嶋田 淳

問い合わせ先：明海大・歯 病態診断治療学講座

口腔顎顔面外科学

TEL：049-285-5511

●第40回日本インプラント学会学術大会

開催日：9月17日（金）～19日（日）

会 場：札幌コンベンションセンター

大会長：松沢耕介

問い合わせ先：北海道医療大学・歯 口腔機能

修復・再建学系

TEL：0133-23-1059

●第21回日本咀嚼学会学術大会

開催日：10月1日（金）～3日（日）

大会長：水口俊介

場 所：東京医科歯科大学湯島キャンパス

問い合わせ先：医歯大・大学院・医歯 摂食機能

回復学講座全部床義歯補綴学

TEL：03-5803-5563

●第55回日本口腔外科学会総会・学術大会

開催日：10月16日（土）～18日（月）

会 場：幕張メッセ国際会議場

大会長：山根源之

問い合わせ先：東京歯科大学市川病院 オーラル

メディシン 口腔外科学講座

TEL：047-322-0151

●第58回国際歯科学研究学会日本部会（JADR）
学術大会

開催日：11月20日（土）～21日（日）

会 場：九州歯科大学

大会長：西原達次

問い合わせ先：九歯大 健康増進学講座感染分子
生物学分野

TEL：093-582-1131

コンテンツ

『顎顔面補綴治療のガイドライン』作成にあたって…	1
『顎顔面補綴治療のガイドライン』におけるCQについて…	2
第28回学術大会 in 富山……………	3
平成21年度優秀論文賞受賞者の声 ……	4
関連学会報告 ……	4
書籍紹介 ……	6
関連学会の案内 ……	7

・皆様のご意見をお寄せください。

日本顎顔面補綴学会広報委員会

委員長 小野高裕

委 員 隅田由香、熊倉勇美、小山重人、

古賀千尋、山口能正

幹 事 城下尚子

TEL:06-6879-2954, FAX:06-6879-2957

E-mail:ono@dent.osaka-u.ac.jp

〒565-0871 吹田市山田丘1-8

大阪大学大学院歯学研究科 顎口腔機能再建学講座